

平成16年4月吉日

トラック運送事業経営者 各位

株式会社ロジタント
代表取締役 吉田祐起
(押印省略)

拙著「トラックドライバー帝王学のすすめ」のご案内

謹啓

時下ますますご清祥のことと存じお慶び申し上げます。

謹んで標記に関してご案内申し上げます。

この度、積年の願望でありました、トラックドライバー諸君向けの単行本を上梓しました。サブタイトルは「**ザ・プロフェSSIONナルズ**」への**教科書**です。文字通り、経営者の方々にとって、社員ドライバーに対する有効な「教科書」たり得る書籍であると自負するものです。すでに、業界専門紙4紙が同著発刊記事を掲載しましたので添付し、PRをさせていただきます。

本書はトラック運送企業経営者の目線で、社員トラックドライバー諸君に分り易く書きました。書き終えた後に実感したことは、本書が奇しくも「社員ドライバー諸君に対する『経営者代弁の書』でもあり得る」ということでした。その理由を下記に述べて共感を得ると共に、御社ドライバー諸氏への本書購読奨励をもってドライバーの資質向上に資してくだされば幸甚と存ずる次第です。

ところで、近年、ごく一部のトラックドライバーではありますが、許し難い行為によって大きな社会問題を惹起しています。東名高速の飲酒運転による2名の子女焼死事件が発端となって、道路交通法が改正されたのはその一例です。トラックが介在した事故のテレビ報道が後を絶ちません。そんなテレビを観る度に「...アッ! またか!...」と絶句します。

デフレ経済にあって、運賃下落に伴う賃金デフレは避けて通れないのが実態です。旧来型のドライバー・マインド(このことを、私は「プロずれ」したドライバー気質と呼びます)では、そうした労働条件の変化が事故発生の要因であるとばかり、自己責任を回避する傾向すら否定できません。事実、経営者自身の中にも、ドライバーの労働条件低下に過度のコンプレックスを抱き、事故発生が労働条件劣化によるものと受けとめ、かつその矛先を、荷主側による運賃値下げに向ける傾向すら垣間見られます。

避けて通れない物流コスト削減の時代において、経営者はもとより、ドライバー諸君の心にも「革新」が求められていると思うのです。そのような経営・労働環境の時代において、今やトラックドライバーに対する真の意味での教育の在り方が問われていると思います。

僭越ながら、私は30数年間にわたるトラック運送事業経営体験を持つ者ですが、加害交通死亡事故を一人も起こしたことも無く、かつ、最高割引保険契約を永年にわたって全うしました。さらに、その後における満10年間の物流・経営コンサルタントとしては、クライアント企業のドライバー研修で応分の成果を達成し、経営者対象の各種講演実績を積んでおります。満72歳を過ぎた年配者の、「年の功」を駆使した者のみに許される、それは独特無比のドライバー教育哲学と理念と実行力であると自負しております。

元来、私は安全運転の原点を、スキル(運転技術)よりウィル(心掛け)が大事と考えています。ドライバーの人間性向上こそが大事と主張しています。

具体的には、ハウツー(do & don't)ものでなく、ドライバーの人間性、社会人として

の常識の積み重ねを求めています。「家庭では良きパパであり、良き亭主になれ。良き社会人を目指せ。正しい心の持ち主であれ。さすれば、良きドライバーになれるのだ！」がそれです。

しかし、一方では、人間性を云々することを、あたかも「プライバシーの侵害」と誤った受けとめ方をして、この問題を回避する傾向が否定できません。

「人間性がすべて」と言ったのは、かの著名なスティーブン・R・コヴィー博士です。同博士の弁によりますと、彼は1776年以降のアメリカで出版された『成功』に関する文献をすべて読むことにしていたそうですが、自己改善や一般向けの心理学などに関する分野で、何百冊という本・記事・論文に目を通した結果、驚くべき傾向に気付いたそうです。

それはアメリカ合衆国最初の150年の繁栄を支えた文献のほとんどは『成功の土台は人格である』としていることであった、と。この人格主義ともいえる文献の数々は、アメリカ人に誠実・謙虚・忠実・節制・勇気・正義・忍耐・勤勉などの黄金律を教えていた、とあります。優れた人格は、優れた人間性に通じ、さらに、ドライバーの場合は安全運転に通じる、というのが私の哲学です。

誤った人間性の上に築かれた知識は、基礎の無い建物みたいなもので、如何に優れた建材技術を使った建物でも崩壊します。

疑われるような人間性のドライバーには、如何に運転技術が優秀であっても、それが過信と傲慢さを誘発し、何時か大事故を起こす危険性がある、というのが私の主張する論理です。人間性を正しく豊かにする、弛まぬ努力こそが、安全運転教育に大事と心得ます。

そのようなことから、私はかねてより、安全運転操業を究極の社会的責務とする運送事業経営者は、他産業経営者に比べ、より真摯な「教育者」としての自負と責任を自覚すべきだ、と主張しています。

業界関連の講演活動機会を与えられることの少なくない私ですが、本書出版を機に、講演会出席者当該冊数の本書を会場に持ち込み、購読していただいた上で、次のような講演テーマを提案し、関係主催者側の共感と賛同を得ていることを嬉しく感じています。

トラックドライバー教育の真髄

～ 運送事業経営者は「教育者」としての自負と責任がある～

しかし、ハウツーものの教育ならまだしも、こと人間性とか人格に関わることになる、社長といえども、職権をズバリ行使するような言動は、時には社員の反発を招きます。具体的には、社長が自分より年上の社員に対して語る内容には限界がある、ということです。

実際に出くわした話ですが、創業者の実父社長が亡くなって社長になった若い後継社長が、自分より年上のドライバーがいてはやり難いことから、全員を年下のドライバーに総入れ替えした(年上のドライバーを解雇した)という物騒な実話もあるのです。

先代社長時代から何十年も勤めてきている老練の(プロずれした)ドライバーに対しては、後継若社長といえども遠慮があって、言いたい、注意したいことがあっても言い難い、というのが偽らない実態です。

こうした年齢による労使関係の微妙な遠慮や気配りが、ドライバーの人間性や人格の範疇まで立ち入るような、思い切ったドライバー教育の実践に足かせとなっていることは否定できません。

加えて、多くの経営者にみられる傾向ですが、「相手のドライバーは国家試験を受けた有資格者であるのだから、まあそこそこにやってくれるだろうし、また、そうでなくってはいけない、そのための運転免許だ。ことさらに『再教育』することはないだろう…」といったヘンな信頼感や、逃げ口実すら垣間見られるのです。しかし、それはとんでもない認識不足で

あり、思い違いです。運転技術は二の次であって、もっとも大切な人間性は生活環境や本人の心掛け次第で刻々と変化し、常に向上努力が求められているからです。

このように考えますと、本当に価値ある、有効なドライバー教育の手段と言え、豊富な人生体験を踏まえ、かつドライバーの気質にも触れた体験を有し、それなりの実績を持つ人物のレクチャーによる教育か、もしくは、そういった人物によって書かれた「教科書」の存在が強く求められると思うのです。

手前ミソですが、そうしたキャリアと年の功を十分に備えた私が、心を込めて書いた本書こそが、格好の「社員ドライバーに対する『経営者代弁の書』」になり得ると自負します。

ご年配で人格的に優れた社長の場合ですと、そうしたドライバー教育の役割は十分に果たし得るかも知れません。しかし、それとて、小規模の会社でしたら可能でしょうが、ちょっと規模が大きくなりますと、社長の手にも負えなくなります。

いわゆる、中間管理職がその役割を代行することになります。大手企業の場合は完全にそうした管理体制を余儀なくされます。

その場合、比較的若手の管理者の出番になります。となると、前述した、若者が目上の中高年者を「人間的に諭す(教える)」難しさに遭遇するのです。これが出来ないことから、ドライバー教育が「ハウツーもの」だけで終わってしまうことが避けられないのです。

ドライバー教育を若手社長が直接する場合も含めてですが、中間管理職に任せる管理体制でも、結構、効果的に実践する手法があるのです。我田引水の弁を隠せずのことですが、それは本書を社員ドライバー全員に購読さすか、買い与えるか、ということから始まります。

ドライバー各自が本書を自主的に読むことを推進する一方で、例えば、社内安全会議の場で「教科書」として起用し、輪読会形式で朗読し合うとか、本書の内容を巡ってのディスカッション等々、管理者とドライバーが一緒になって安全対策を論じ合うための「題材」として、という図式です。

そのためには、時には著者の弁の揚げ足をとるほどの労使間論議もあって良いのでは、とすら思っています。「人間性の云々」での論議はその一例です。本書内容を巡る是非論議の中から、労使コンセンサスも生まれてくるとさえ思うのです。

お若い社長や中間管理職でしたら、立場上、大きな声で語り難いことを、「この道の老練ベテランの著者が言っているのだから...、しかし、そう言えば、ごく当たり前のことを言っている、そうだなあ~、そう思わないか?~...」といった風に共感し合う中から、社員ドライバーの理解も得られる、と思うのです。再度、「社員ドライバーに対する『経営者代弁の書』」とする所以です。

事実、私は各所でドライバー研修に臨んで、経営者のホンネをズバリと代弁しています。そんな時、社長さんがよくおっしゃいます。「...センセイ、私が言い難いことを言ってくださるから助かります...」と。それがどんな内容かを此処で述べる必要はないと考えます。

トラックドライバー諸君に誇り高い職業観とガッツ感を与え、併せてトラック運送業界「企業労使」の社会的地位向上を目指すのが本書です。

更にまた、失業中の若者たちが本書を読んだら、ひょっとして、トラックドライバー職の魅力と動機とヒントを得て新規参入し、この業界に新しい風(「プロずれ」していないドライバーの誕生)を吹き込んでくれるのではないかな、と密かな期待も抱いているのです。

このような理念のもとに本書を世に出しましたので、何とぞ、本書への格段のご関心とご理解を賜われますようお願いする次第です。

謹白

(添付資料) 1. 業界専門紙4紙の新刊図書記事コピー 2枚